

マダラコガシラミズムシ

Haliplus sharpi Wehncke
コウチュウ目・コガシラミズムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

今回、新たに3か所で生息が確認され、2015年には既知産地の敦賀市中池見でも生息が確認されたが、本種が安定して採集される生息地はない。生息基盤は脆弱であると判断し、準絶滅危惧とした。

種の特徴

体長 3.0～3.5 mm。上翅の基縁には黒い横帯があり、上翅会合部にも黒条がある。水生植物が豊富で水深の浅い湿地や水田に生息する。幼虫は7～8月に確認され、シャジクモ類を食べることが明らかになっている。成虫は雑食性とされる。

分 布

北海道～九州に分布。県内では敦賀市中池見と新保で過去に記録があり、今回は中池見のほか、あわら市後山、越前町茶原、越前市安養寺でも生息が確認された。

生息を脅かす要因

湿地の消失や乾田化、水田の放棄による草地化が脅威となる。また、あわら市の生息地周辺のため池にはアメリカザリガニ等外来種が侵入しており、水生植物の減少や水質の悪化も心配される。

参考文献 福井県自然保護課（1998）、環境省（2015）、野一色・村上（2015）、上野ら（1985）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○						○	○				

クロゲンゴロウ

Cybister brevis Aube
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

かつては良好なため池では多くの個体が捕獲された。近年生息地の数自体に大きな変化はないようだが、生息場所1か所あたりの個体数の減少が顕著である。

種の特徴

体長 20～25 mm。一般に大型ゲンゴロウ類とよばれるゲンゴロウの中では最普通種とされるが、都市部では絶滅した都道府県も珍しくない。全身ほぼ黒色で、ため池や湿地に生息する。幼虫は捕食性、成虫は動物の死骸等を集まる。

分 布

国内のほぼ日本全域に分布する。県内では従来嶺北～嶺南の各地で見られたが、姿を消した地域も多い。

生息を脅かす要因

ため池の消失、アメリカザリガニやオオクチバス等の侵略的外来種の定着、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 環境省（2015）、森・北山（1993）、上野ら（1985）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○	○	○			○	○	○	○		○	○	○

ミズスマシ

Gyrinus japonicus Sharp
コウチュウ目・ミズスマシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

以前は身近な水域に普通に見られた種であるが、1960年代以降全国的に激減し、生息地は局地的になっている。本県では既存産地での生息は確認されたものの、他の水生昆虫同様存続基盤への圧力は強い。

種の特徴

体長 6.0～7.5 mm、体型は卵型。背面は黒色で弱い金属光沢がある。低地～山地の池沼、水田、河川の淀み等に生息する。水面を群泳し、水面に落ちた昆虫等を捕食する。

分 布

国内では北海道～九州まで広く分布する。今回の調査では、越前町、福井市、大野市、勝山市で本種の生息を確認できた。

生息を脅かす要因

生息地の開発による消失、水質の汚染、アメリカザリガニ等の侵略的外来種の侵入。本県での産地は限られ、今後上記要因により容易に消滅する可能性がある。今回調査した産地では、アメリカザリガニが侵入している所とブルーギル、ブラックバスの生息地と隣接する所があった。

参考文献 環境省（2015）、佐藤（1977a）、佐藤（1977b）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1985）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○				○	○	○		○	○	○

昆虫類